患者参加型医療と、それにつながる病診連携

MEDICA Cloud
医療をもっとわかりやすく簡単に

習志野台整形外科内科
Narashinodai orthopedics & internal medical clinic
あなたの笑顔のために

宮川　一郎

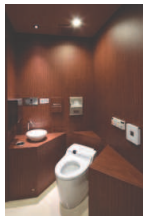
略歴

1993年　帝京大学医学部卒業
1995年　国保 旭中央病院
1998年　帝京大学 整形外科・救命救急センター
2001年　岩井整形外科内科病院　整形外科部長
2002年　電子カルテ関連のシステム導入
2007年　**習志野台整形外科内科**　開業
2011年　**メディカ クラウド株式会社**　設立

オリジナルで作成した順番表示のカウンター

内鍵で点灯するトイレ照明

高さの異なる待合の椅子



習志野台整形外科内科　概要

2009年度（2009年4月1日～2010年3月31日）

平均患者数：260 人／日
　新患（再初診含）：　18 人
　再診　　：　242 人

総患者数　：59,556 人／年
　新患（再初診含）：　4,034 人
　再診　　：　55,522 人

医療を取巻く環境が年々変化している

主訴不在

「ついでに受診」に「コンビニ受診」

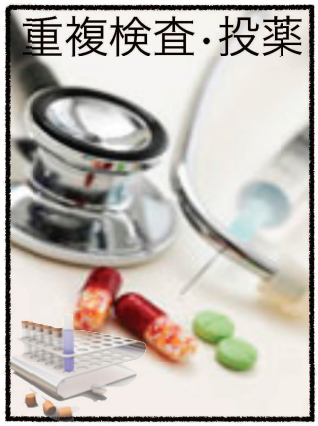
病識格差

お薬手帳・他院結果なし

選択欠落

取捨選択思考の欠如

医療を取巻く環境が年々変化している

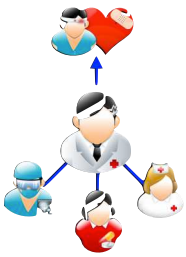
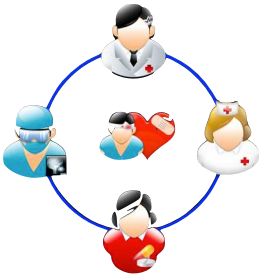


誰が支える？

患者自身の参加が必須

医療と患者の新しい関係の提案

（納得して治療を受けてもらう）（理解して治療に参加してもらう）

	強制診療 →	納得診療 →	理解診療
説明方法	ムンテラ	インフォームド・コンセント	インフォームド・チョイス
投薬・治療	パターナリズム	コンプライアンスの向上	アドヒアランスの向上 コンコーダンスの向上
医療体制	医師中心の医療	チーム医療	患者参加型チーム医療
			

理解診療実現のための取り組み

MEDICA Cloud
医療をもっとわかりやすく簡単に

iPad問診票

A&D Medical

Bluetooth血圧計
連動帳票システム

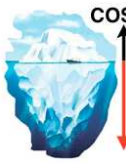
IC動画 HD

Intelligent
Medical Display

院内情報
共有システム

医療CGの立体視活用

PHR・EHRの課題



COST
- 初期投資（最初は補助金にて運用）
- 通信費・ハード交換費
- サーバー保守費
- 診察券の発行費

Literacy
- 入出力を医師に依存
- 医療者のITリテラシーが低い
- 紙カルテ記載とキー入力の2重苦

Data Mining

異なる電子カルテからデーターの抽出が困難
紙カルテの混在　　統一IDに懸念の声

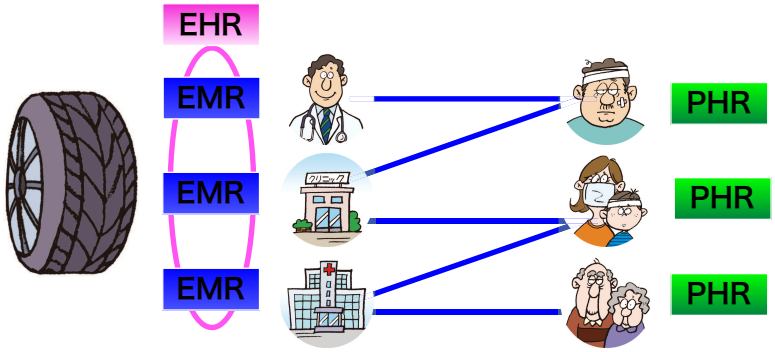
Closed System
- 患者が参画できない
- 入出力ツールが選べない
- 地域をまたげない
- 他のヘルスケアと連動しない

大手ベンダー企業の独占市場化

EHRの課題 → 参加数

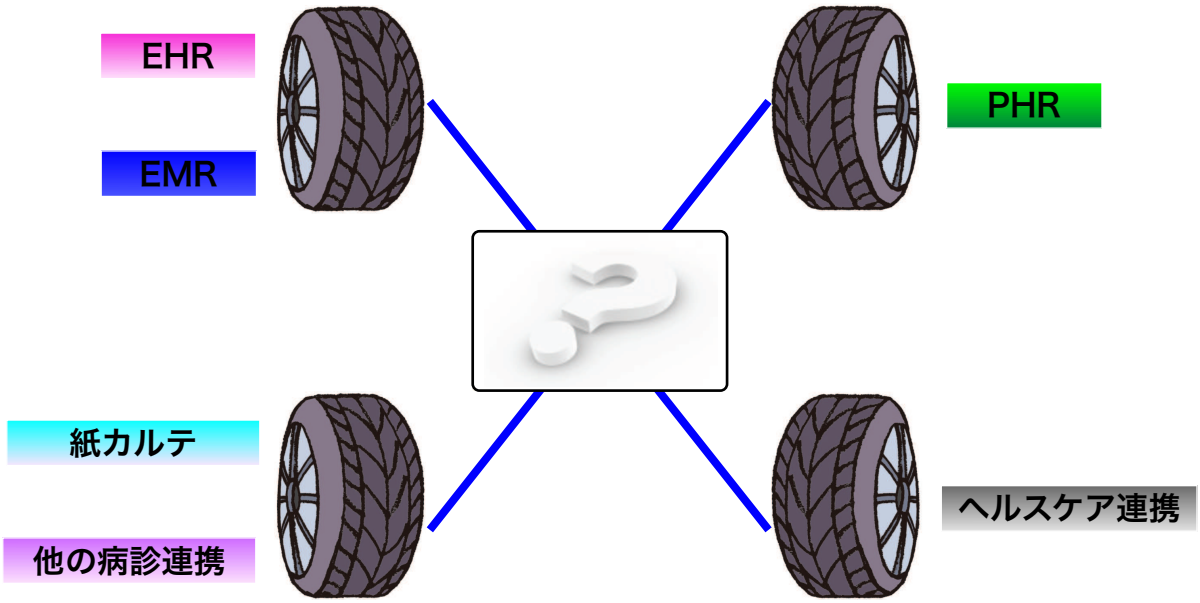
PHRの問題点 → 健康情報の価値付け「低」

皆保険制度による受診料の安さとフリーアクセスが原因？



「一輪駆動」じゃ無理がある？

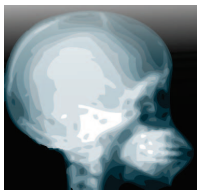
課題解決の為には情報のハブが必要



キーワードは「四輪駆動」

命のMICカード

検査情報



電子カルテ

診療報酬

DICOM（予定）

SS-MIX

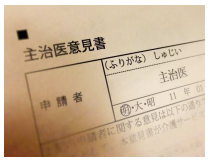
電算コード

救急車

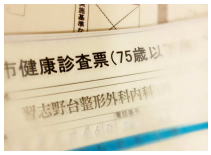
医療機関

在宅診療

主治医意見書（予定）



特定健康診査（予定）



調剤薬局

カード内医療情報の閲覧権限

救急隊閲覧可能項目

- サマリー
- 処方歴
- 受診歴

カード保持者閲覧可能項目

- サマリー
- 個人情報
- カレンダー
- 受診歴
- 処方歴
- 検査結果
- 予約

医療機関閲覧可能項目

- サマリー
- 個人情報
- カレンダー
- 受診歴
- 処方歴
- 検査結果
- 予約
- 検温入力
- カルテ
- 病名

Medical Information Card 簡単ログイン

救急用コード

患者コード

医療機関コード

MIC-Checker

MIC-Connect

一部のみ閲覧のみ可能な参照モード

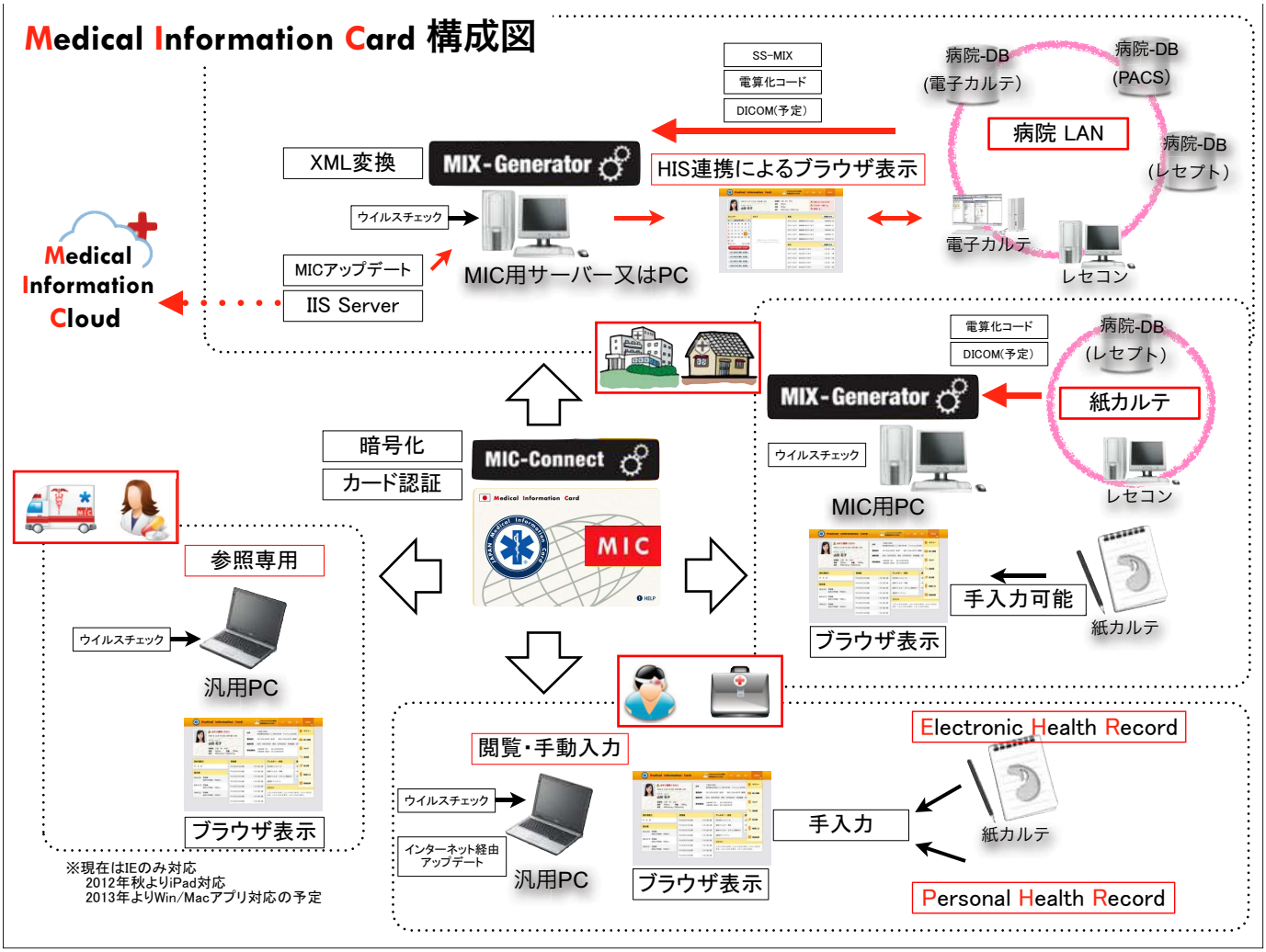
参照と一部登録可能な編集モード

全ての登録が可能な編集モード

情報の暗号化

パス入力制限

医療機関登録



「患者参加の病診連携」のためのPHR

http://www.qolms.jp/

病診連携に患者参加するために自らの情報を入出力・管理する PHR サイト

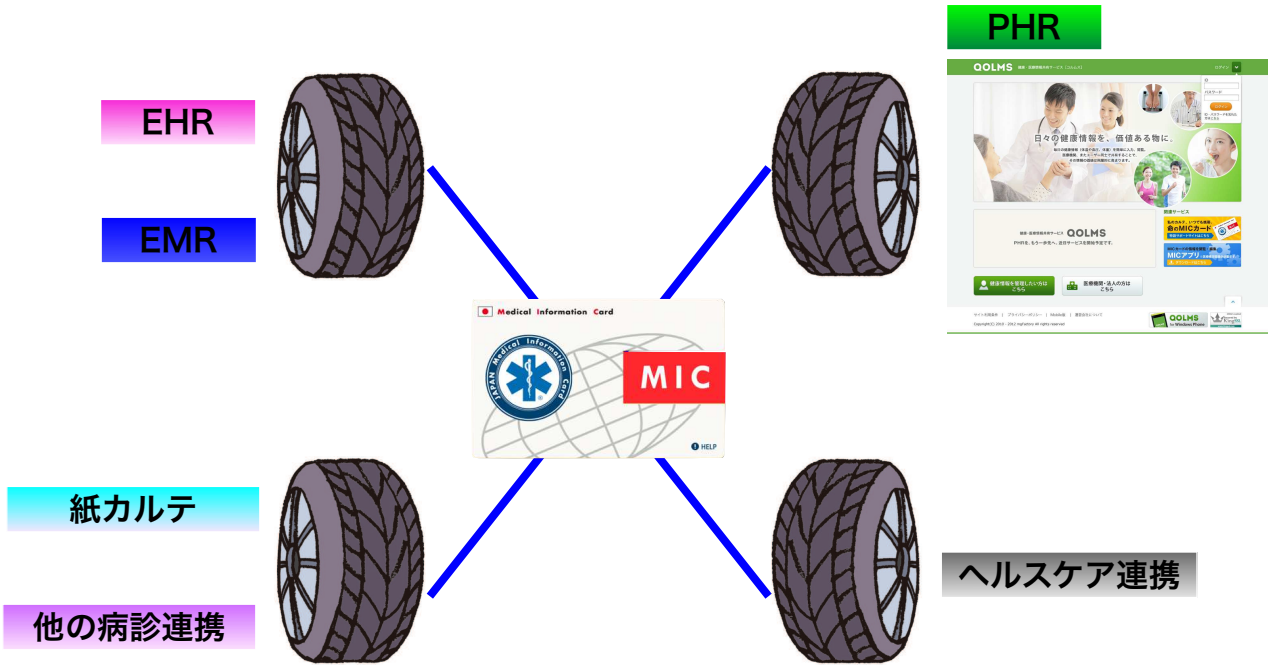
PHRの価値を高める方法は？

- 家族連携～遠隔家族の見守り
- 医療情報の取込み
- かかりつけ医療機関との連携
- 医療機関の予約ができる
- 血圧計など医療機器M2M連携
- ヘルスケアへ情報の連動

⋮

病診連携の価値を高める

MICカードをハブとした医療情報連携



医療崩壊を防ぐために

私たちは、今こそ「納得して治療を受けてもらう」時代から「理解して治療に参加してもらう」時代へと変わるべきと考え、活動を開始しました。

「薬を飲めと言われたから…」ではなく、薬を飲まないといけない必要性や飲む事で起こる変化を患者さん自らが理解し、自らの治療に必要な自己管理や自分ですべき治療を医療者と一緒のチームの一員として行ってもらいたい。

患者参加型医療の実現により、病気や治療法を患者さん自身も考え、一緒に実践する事で治療の継続と病気の克服ができる事を願っています。

MEDICA Cloud
医療をもっとわかりやすく簡単に

習志野台整形外科内科
Narashinodai orthopedics & internal medical clinic
あなたの笑顔のために

宮川　一郎